

令和3年度第1回北海道立帯広美術館協議会 欠席者意見等

○協議・意見交換

【帯広美術館の活性化について】

近郊だけでなく、より広い地域の住民に、帯広美術館の活動を周知していただくようお願いいたします。遠方からの来場は難しいので、この機会に、オンライン展示会なども企画し、近郊でなくても見学できるような取り組みをご検討いただきたいと思います。

《回答》 令和2年度より、展覧会を紹介する動画を作成し、配信を始めました(北海道リモート・ミュージアム)。当館のWEBサイト、道庁サイトのHOKKAI・DO画やYouTube道庁チャンネルからご視聴できます。また、当館事業の案内チラシ等は北網圏北見文化センター等、地域の施設で入手できるよう、配布を依頼しております。

【道東地域の文化振興の発展について】

道東地域の住民になって一番不自由に感じることは、文化・芸術に触れる機会が極端に少なくなったことです。子どもたちに、文化・芸術に触れる機会を増やしてほしいと思います。大人になってから、急に、文化・芸術に興味を持つようにはならないと思うからです。

《回答》 当館では年少者を対象に美術に親しんでもらうための様々な事業(展覧会セルフガイド、キッズ・ツアー、ミュージアム・ミステリー等)を実施しております。また、美術館ボランティア「しらかばの会」の協力を得て、児童生徒を対象に展覧会観覧料を無料にする試みを行っております。また、学校単位での団体観覧を積極的に受け入れてきました。今後も学校単位での団体観覧を増やすよう努めて参ります。

【美術館の役割に期待すること】

美術館の役割は、作品と人々をつなぐ「コーディネータ」の役割があると思います。多くの作品を、多くの人に出会わせ、その作品の素晴らしさを伝えていただきたいと思います。また、特に子どもたちに創作の楽しさ、多様な表現を伝える活動も行っていただきたいと思います。

《回答》 当館は1991年の開館以来、古今の優れた美術作品を紹介すべく、様々な分野の展覧会の開催を続けてきました。その際、図録や解説パネル、講座事業を通じて作品の背景についてもご説明を努めて参りました。今後も美術の創作の楽しさ、多様な表現を伝える活動を行い、地域文化の振興に努めて参ります。

【今後の取組(要望)】

帯広市内だけでなく、より広い地域の住民に対して、(特に道東地域の住民)サービスを提供する使命があると思います。現状、利用者がどの地域の住民なのかを調査していないようですので、市内以外の地域住民へのPRや利用しやすいサービスの提供を希望します。

《回答》 来館者アンケートには居住地についても記載項目にあげております。令和2年度の集計では、帯広市内からの来館者が49.2%と半分を占めています。年度当初に、教育委員会及び学校を通して展覧会や関連事業の案内を行う他、新聞掲載等を依頼していますが、今後も様々な機会をとらえ、周知活動を行って参ります。